



# 学校だより

子どもの「やる気」を育てます

3月号 令和7年2月28日  
西東京市立保谷第一小学校  
校長 原之雄  
〒202-0004 西東京市下保谷1-4-4  
TEL042-422-4513 FAX042-424-7117  
<http://www.nishitokyo.ed.jp/e-houyual/>  
e-mail [e-houyual@nishitokyo.ed.jp](mailto:e-houyual@nishitokyo.ed.jp)

保谷第一小ホーム  
ページ  
QRコード



## 主体性と自由 ～卒業する6年生に向けて～

校長 原之雄

早いもので、今年度も残り一か月となりました。保護者・地域の皆様方には、学校行事やPTA活動等、様々な場面でご協力をいただき、誠にありがとうございました。1年生から5年生は、もうすぐ一つずつ学年が上がります。そして、6年生は、本校を巣立ち、中学校に進学します。今年度最後の学校便りでは、卒業生である6年生に紙面をお借りしてエールを送りたいと思います。

少し前、アメリカから日本の大学に留学している学生と話す機会がありました。様々な話題が出たのですが、日米の比較で興味深い話を聞くことができました。曰く「日本の中学生、高校生は、本当によく勉強するし、真面目で優秀だ。アメリカでは、あんなに勉強していない。」「逆に日本の大学生は、随分のんびりしてみえる。アメリカでは、大学に入ると朝から晩まで勉強漬けで必死になっている学生が多い。」

授業に関しても、いわゆる講義形式ではなく参加型で、常に自分の意見をもって発言すること、グループワークで議論すること、相手に分かりやすく説明することが小学校段階から徹底されているそうです。昨今言われている「主体的、対話的で深い学び」の先行例がここに見られます。この「主体性」について少し考えてみたいと思います。

私たちは、何かうまくいかないこと、辛いことがあると自分以外の何かのせいにして責任を転嫁しがちです。「こうなったのは、〇〇のせいだ!」「〇〇はいいなー、良き理解者がいて・・・」「自分を理解してくれる人がいない!」「自分が幸せじゃないのは、この社会が悪いからだ!」。自分以外のものに怒りの矛先を向け、恨みを募らせていきます。

しかし人間は、それほど脆弱な存在なのでしょう。広い意味での環境に左右され、それに従属せざるを得ないほど受動的な存在なのでしょう。

私は、素晴らしい社会に生まれれば人はみな幸せになれるとは思いません。逆にたとえどんなに矛盾に満ちた醜悪な世の中であっても、自分の人生をたっぷりと、贅沢に生きることができると考える性質です。なぜなら、人間には、主体性と自由があると思うからです。

私の考える主体性とは、自分なりのポリシー（原理・原則）をもって自分で決断し、自分で行動することです。自分で自分の人生を選びとること、生きることです。勿論、それが法や社会道徳に触れるならば、当然罰を受けなければならないのですが。

誰のせいにも、何のせいにもせず、自分の世界観をもち、自分の人生を責任をもって生きる、この場合の責任とは、結果に関係なく自分の人生を大切に思うことですが。この主体性を発揮することこそ、私たちに与えられた自由だと思うのです。自由とは、何もしないで他者から与えられるものではなく、自ら選び、選んだものに殉ずる（生きる）ことに違いなく、その意味で主体性とは、自由の最も重要な前提だと思うのです。

自分で決め、自分で行動すること、うまくいっても、うまくいなくてもその結果を受け入れること、これは口で言うほど簡単なことではありません。しかし、大人になる過程でぜひとも身に付けてほしい大切な力です。

6年生は今、自分のこと、他者のこと、これからのこと等、希望に満ち、大きく胸を膨らませていることでしょう。或いは逆に、これらのことで悩み、もがいている人がいるかもしれません。しかしそれは、一人一人が真の意味で「生きている」からこそ、とも言えます。保谷第一小学校を巣立っていく6年生が、自由を大切に、自らの人生を堂々と生きていけるよう、周りの大人はずっと応援しています。保谷第一小学校の6年生に幸多かれ!